

東京都土地改良だより

第 153 号



左上：水利協議会定例会/右上：大島町クダッチ地区深井戸ポンプ建屋/左下：大島町沢立貯水池法面調査/右下：新島村地元説明会

- 目次 -

- ・日野用水開削 450 周年を迎えて
- ・全国土地改良大会静岡大会参加報告
- ・第 1 回 農業農村整備の集いー農を守り、地方を創る予算の確保に向けてー
- ・第 2 回 農業農村整備の集いー農を守り、地方を創る予算の確保に向けてー
- ・都道府県水土里ネット事務責任者会議
- ・一都九県土地改良事業団体連合会協議会秋季総会開催
- ・関東一都九県土地改良事業団体連合会協議会要請・要望・提案活動
- ・平成 29 年度多面的機能支払交付金事例研究会への参加
- ・「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展 2017

日野用水開削 450 周年を迎えて

日野用水土地改良区

理事長 天野 武雄

はじめに

日頃より皆様方におかれましては、私ども日野用水土地改良区に対し格別のご理解とご支援を賜り、厚く感謝申し上げます。

さて、日野用水が永禄 10(1567)年に開削されて平成 29(2017)年には、450 年の節目を迎えることができました。用水が開削されたことによって、江戸時代には日野領一帯が「多摩の米蔵」と呼ばれるほどの水田を生み出し、また、用水路には多くの精穀用の水車も設置されていました。

日野用水の節目の年にあたり、次世代への用水の継承に向けて、日野市ともども様々な取り組みを行っていますが、これまでの 450 年を振り返りながら「日野用水」の紹介について寄稿することといたしました。

1 日野の用水の概要

市内には多摩川・浅川を水源とする 12 の農業用水路があり、現在、6 つの用水組合で日野市用水組合連合会を組織しています。これら多くの市内用水路の中で、多摩川右岸の八王子市平町地先と対岸の昭島市に横断して設置した堰の右岸側から取水し、日野市北東部に水路網を巡らせているのが、日野用水土地改良区が水利権を持つ日野用水です。設置時の受益は八王子市の水田 17.5 町歩を含め水田 216.8 町歩と畑 87.6 町歩の合計 304.40 町歩でした。



2 日野用水の取水の歴史

日野本郷の名主と日野宿問屋を兼務した佐藤家(通称、上佐藤家)に伝わる元禄 16(1703)年 3 月の「挨拶目録」に、日野用水の開削について記されています。

その目録によると、遡ること 136 年、永禄 10(1567)年に庄屋の佐藤隼人が、この地方を治めていた小田原北条の一族陸奥守氏照(滝山城主、後に八王子城主)から「罪人」をもらい受けて日野用水を開削したのが始まりです。この用水は、東光寺の飲料水として使われたことが記されています。



次に、貞享元(1684)年 3 月「日野町有形絵図」によると、日野用水は上堰、下堰に分かれ、それぞれ平村(現・八王子市平町)地内、築地(現・昭島市築地町、多摩川南岸)前の多摩川から取水し、甲州街道の周辺に広がる水田の灌漑用水として使用されました。甲州街道沿いの宿場町では飲料水は井戸を利用しましたが、用水は生活用水として利用したようです。

明治 23(1890)年 6 月公布された水利組合条例を受けて、上堰では日野町長が組合長となり「日野用水組合」を結成し、組合員が実務を担当しました。

昭和 7(1932)年、現在の日野用水平堰の上流に手動の巻揚げ機付きの 2 連の水門と幹線の水路をコンクリートにする設計並びに工事を東京府が行いました。総工費 6 万 5 千円で半分を東京府が負担し、昭和 10 年頃に工事が完了しています。



昭和 24 年施行の土地改良法に基づき昭和 29 年 8 月 2 日、日野用土地改良区が組合員総数 527 名で設立され、初代理事長に田中清一氏が就任しました。

JR 八高線約 500m 上流に位置する平堰は、昭和 28 年に東京都が事業主体となって、農林省（現農林水産省）の補助を受け、受益面積 304.4 町歩(水田は 216.8 町歩)を灌漑する高さ 1.2m、長さ 379.1m のコンクリート堰堤と沈床堰堤の設置を計画しました。昭和 28 年に実施設計、翌昭和 29 年に起工し、総工費 7,467.8 万円をかけて昭和 37 年に完成しました。この堰が現在の日野用水平堰の原形となっています。

3 水田面積の推移

明治から平成まで確認できる灌漑面積は、明治 13 年（1880 年）171 町歩、昭和 6 年（1931 年）250 町歩、昭和 29 年（1954 年）日野市域で 304 町歩となっています。

その後、昭和 43 年の新都市計画法による市街化区域の指定などから市内の水田は減少し、平成 7 年は 55ha、平成 27 年には 10ha となっています。

4 日野にあった水車

日野市域では、江戸時代後期から昭和 30 年ころまで用水の水で、56 台の精穀水車が回っていました。また、甲州道中の宿場でもあったため米の需要も多く、水車は上堰・下堰・根川を合わせて約 4 km の間に、16 台ありました。

16 台のなかで一番古いのは、下堰用水にかけられた渡辺郡平水車で、文政 3 年（1820）の設置許可書があります。水輪の直径 1 丈 1 尺(約 3.3 尺)で、明治末頃までありました。



5 これからの日野用水

現在、日野用土地改良区は組合員 70 名によって、日野用水の良好な環境維持に取り組んでいます。今後とも日野用水を残し、引き継いでいくには、日野市をはじめ関係機関、市民の皆様方との連携を、図っていくことが重要であると、日野用水開削 450 周年という節目にあたり実感しております。

「美しい用水」を守り、さらに磨きをかけ、未来を担う子供たちに、良好な環境を残していくためにも、多くの地域住民、多くの近隣企業の皆様に日野用水に関わりを持っていただけるようお願い申し上げます、結びとさせていただきます。



全国土地改良大会静岡大会参加報告

第 40 回全国土地改良大会静岡大会は、平成 29 年 10 月 25 日、沼津市「ふじのくに千本松フォーラムプラザ ヴェルデ」に於いて、全国から土地改良関係者約 4,200 名が参集し、『“ふじのくに”で語ろう土地改良が創る豊かな水土里を』を大会のメインテーマに盛大に開催されました。東京からは会長をはじめ、大島町、八丈町からも参加いただき、総勢 10 名が出席しました。本大会は農業農村整備に携わる全国の土地改良関係者が年に一度集い、農業と農



村の持続的発展とそれを支える土地改良事業の役割を再確認し、次世代に確実に引き継ぐことを誓い合う機会でもあります。

大会は、静岡県の紹介映像や県内の高校生による和太鼓・吹奏楽の演奏による歓迎セレモニーで幕を開けた。水土里ネット静岡の伊藤会長より開催県の挨拶、主催者を代表して二階全国水土里ネット会長の挨拶と続き、川勝静岡県知事並びに大沼沼津市長、杉山静岡県議会議員からの歓迎ことば、来賓の



谷合農林水産副大臣、進藤都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問から祝辞が述べられた。

式典は土地改良事業に功績のあった方々の表彰へと進められ、農林水産省大臣表彰 6 名、農林水産省農村振興局長表彰 16 名、全国土地改良事業団体連合会会長表彰 45 名が受賞された。

表彰式終了後、室本農林水産省農村振興局次長の基調講演、静岡県の優良事例紹介と続いた。事例紹介では、清水農業協同組合より「農業農村整備事業取組事例」、農業生産法人 遠州森 鈴木農園株式会社から「水田を 3 倍活用した魅力ある農業の展開」と題したそれぞれの取り組みが紹介された。

また、土地改良応援講演として静岡県内において農業を営む、女優の工藤夕貴氏から「身土不二のすすめ 食と農が作る健康寿命」と題した講演があった。

最後に、次回開催の宮城県へと大会旗が引き継がれ閉会した。





翌日の事業視察は、「中部・志太コース 静岡の特産を支える土地改良事業」に参加し、“庵原地域の樹園地造成”及び、平成 25 年「静岡の茶草場農法」が世界農業遺産に認定された“牧之原台地の大茶園”等を視察した。

来年度は東日本大震災から復興する宮城県で開催されます。多くの関係者が参加できるよう環境整備を進めて参りますので、会員の皆様方の積極的なご参加をお待ちしております。



広大な庵原地域の樹園地

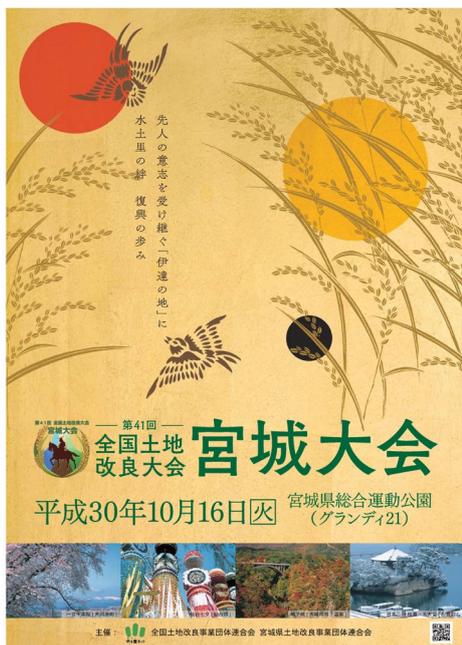


自然の力を活かす牧之原台地の大茶園

第 41 回全国土地改良大会 宮城大会

先人の意思を受け継ぐ「伊達の地」に

水土里の絆 復興の歩み



とき 平成 30 年 10 月 16 日 (火)

ところ 宮城県総合運動公園 (グランディ 21)

皆さまのご参加をお待ちしております。

第 1 回 農業農村整備の集い

— 農を守り、地方を創る予算の確保に向けて —

去る 6 月 26 日、東京都千代田区の砂防会館別館「シェーンバッハ・サボー」において「農業農村整備の集い」が開催されました。

“集い”には、全国の土地改良関係者をはじめ国会議員など多くの関係者が参加され、農林水産省からは山本有二農林水産大臣、磯崎陽輔・齋藤健両副大臣、細田健一・矢倉克夫両大臣政務官、農村振興局幹部職員などが出席し、総勢 1,200 名の農業農村整備関係者が参集し、農業を守り地域を創造するための予算の確保と施策の拡充をめざして、要望事項の実現に向け一致団結するために毎年、夏と秋に 2 回開催されます。

主催者を代表して二階俊博全国土地改良事業団体連合会長は、この 6 月 19 日に逝去された全土連の吹田副会長に哀悼の意を表したあと、闘う土地改良の旗を高く掲げ、「土地改良への強化を一時も緩めてはならない。予算の確保に向けて力を尽くしあおうではないか。」と強く訴えました。

来賓の祝辞では、山本農林水産大臣から土地改良事業関係予算について「平成 29 年度当初予算と昨年の補正予算を合わせると、平成 22 年度の大幅削減の前の水準にまで回復した。今後とも、最大限の予算確保に努め、生産基盤の確立に全力で取り組んでいく。」と述べられました。

引き続き、自民党の西川公也農林水産戦略調査会長、宮腰光寛食料産業調査会長、公明党の井上義久幹事長、進藤金日子都道府県土連会長会議顧問が祝辞を述べられました。

進藤金日子都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問の祝辞では、「本日の集いを契機に改めて全国の土地改良関係者が一致団結して農政改革の先頭に立ち、必要な予算の確保に頑張っていかなければならない。」と皆さんのご期待に添えるように頑張ると決意が述べられました。

その後、事例紹介、要請文を満場一致で採択し、今年の全国土地改良大会を主催する静岡県土地改良事業団体連合会の伊東真英会長の音頭でガンバロウ三唱を唱和し、盛会のうちに集いを閉会しました。



第 2 回 農業農村整備の集い

— 農を守り、地方を創る予算の確保に向けて —

全国から農業農村整備事業に携わる土地改良関係者と衆参両院の国会議員を含めた 1,200 余名が参集し、11 月 15 日永田町のシェーンバツハサポーに於いて“農業農村の集い”が開催され、農林水産省からは齋藤健農林水産大臣をはじめ磯崎副大臣、野中、上月の両政務官、荒川農村振興局長、室本局次長が出席されました。

開会にあたり、二階俊博全国土地改良事業団体連合会長は『常に我々は「闘う土地改良」でなくてはならない。農業の現場で勤しんでいる皆様方の負



託に応え、責任感をもって色々な面でしっかり頑張る。本年度予算も補正予算を含め大幅削減前の水準を確保することができた。これも皆様方のご支援とご尽力の賜物である。今こそ、9月に施行された改正土地改良法を軸に新たな展開を図っていく大きな節目にあり、その具体化のため予算の安定確保と前進に向けしっかり団結して農家の皆さんの期待に応えようではないか』と「闘う土地改良」に一層の団結を呼びかけられました。

齋藤農林水産大臣からは、「農地や農業水利施設

といった基盤がしっかり構築されて初めて農業者による自由な経営が実現でき、そのために農林水産省は制度と予算の両面から土地改良の一層の推進に取り組む」といった決意を込めた祝辞が述べられ、また、進藤金日子都道府県土連会長会議顧問からは、「現場の意見や提案、予算確保に向けた要望など一つ一つしっかり見させていただいて、予算を確保し事業を実施したら、どういう農業と農村になっていくか、具体的な数値を示し必要な予算の確保に農林水産大臣はじめ農水省、財務省にしっかり受け止めていただいている。今後とも皆様方とともに頑張っ参りたい」との祝辞がありました。その他、自民党の竹下総務会長、塩谷農林・食料戦略調査会長、森山 TPP・日 EU 等経済協定対策本部長、公明党の井上義久幹事長から、それぞれ祝辞が述べられました。

その後、農業農村整備事業によって優れた営農を展開している和歌山県の梅と温州ミカンの産地で有名な南部町の梅生産農家から、かんがい排水事業によって適切なかん水と適期防除が可能となり、収量安定と品質の向上、管理作業の省力化の成果などの事例が発表されました。

最後に要請文を満場一致で採択し、来年の全国土地改良大会を主催する宮城県土地改良事業団体連合会会長の音頭でガンバロウ三唱を唱和し閉会となりました。



都道府県水土里ネット事務責任者会議

全国土地改良事業団体連合会が主催する都道府県水土里ネット事務責任者会議が、9月11日（月）全国都市会館において開催されました。

主催者を代表して全土連の小林専務理事から挨拶の後、農林水産省の担当官から平成30年度農業農村整備事業関係予算の概算要求について、それぞれの説明がありました。

農林水産予算概算要求の総額は、対前年比115.0%の26,525億円。

農業農村整備事業関係予算は、対前年比124.9%の5,020億円。

当初予算の確保を基本に補正予算を見越した要求となっています。

東京都においては、受益となる地域の事業規模などから農業農村整備事業の対象が限定され、地域課題の解決に必ずしも直接的には対応できないものの、全国的な予算確保の動向は農家の整備に対する意欲を集約し、土地改良事業を中心とする基盤整備の事業化への取り組みに影響を与えるなど、大きな役割を果たしています。

それぞれの地域において、課題を明確にしながら農業農村整備事業を有効に活用し、地域課題の解決に向けて取り組んで行くことが求められています。

一都九県土地改良事業団体連合会協議会秋季総会開催

関東一都九県土地改良事業団体連合会協議会の秋季総会が11月10日（金）全国土地改良事業団体連合会の小林専務を来賓にお招きし開催されました。

議案は、総会終了後に要請活動が予定されている農業農村整備事業推進に関する要請・要望・提案（案）並びに平成30年度役員について協議し、何れも原案通り承認されました。平成30年度の役員は会長に茨城県、副会長に長野県、監事として栃木



県と静岡県各県土連会長が選出されました。

午後からは、今年度当番県の藤原忠彦長野県土連会長の先導によって、財務省、国会議員、農林水産省にそれぞれに要請と要望、提案を行いました。

農業農村整備事業予算の確保と政策提案は、わが国農業を引き続き振興していくためには是非とも必要であり、今後とも各県と連携して取り組んで行くこととしています。

山村や離島などの条件不利地域を抱える東京農業においては、農業農村整備事業の活用を模索しながらも、地域課題の解決に向けて新たな施策の創設を提案していくといった積極性が重要だと考えています。



関東一都九県土地改良事業団体連合会協議会要請・要望・提案活動

関東一都九県土地改良事業団体連合会協議会は、6月6日都道府県会館において春季総会を開催し決議事項に基づき、国会議員、財務省、農林水産省への農業農村整備事業推進に関する要請・要望・提案活動を実施しました。今年度の当番県である長野県土地改良事業団体連合会の藤原忠彦会長をはじめ同協議会の事務責任者19名が出席しました。

藤原会長は、農業農村整備関係予算を平成30年度当初予算で、地域の要望に十分応えられる規模の確保と農業農村整備事業を安定的・計画的に進める



ために、さらなる充実をお願いする旨、それぞれの要請・要望・提案先で説明し活動を行いました。

はじめに出向いた財務省では、岩元達弘主計官は要望に対して「農業農村整備事業予算については大変重要であると考えており、本日の皆様の要望に添うよう取り組んでまいります」と好意的に述べられた。

次に関係与党の国会議員への要請を行い、二階俊博自由民主党幹事長は「土地改良予算は、平成21年度当初予算額の復活を2年間で完結するよう取り組み、その結果、皆様方の協力もあり、平成28年度補正予算と

平成29年度当初予算で復活しました。平成30年度は当初予算での獲得が重点項目ですが、非常に厳しいことであり、皆様方もこのことを十分理解したうえで、農林水産省と一緒に取り組んでほしい。復活した予算が減ることの無いよう、全国の土地改良関係者が一丸となってがんばりましょう」と述べられた。

宮下一郎自由民主党政務調査会副会長は「私は昨年10月から中山間地域農業を元気にする委員会の委員長を務めております。中山間地域では、担い手が少ない中で農地を有効活用し、農業所得を高める必要があります。皆様から提言をいただきながら、継続して取り組んでまいります」と述べられた。

齋藤健農林水産副大臣は「来年度予算は厳しく、今までどおりとはいかないが、土地改良事業は農家が一番喜んでいただける事業でありますので、私もトッププライオリティで取り組んで来ました。今後もこの姿勢は継続していきます。また、要請内容の法改正については、負担ゼロの制度設計等、課題はあるが使い易いものにしていくよう努力します」と述べられた。この他、関係国会議員と農林水産省への提案の2班に分かれ、それぞれ活動を行いました。

農林水産省の室本隆司農村振興局次長、奥田透整備部長をはじめとする幹部に対して、要請・提案活動を実施しました。



平成 29 年度多面的機能支払交付金事例研究会への参加

農林水産省の多面的支払推進室と関東農政局並びに全国水土里ネット多面的機能支払促進協議会（事務局：全国土地改良事業団体連合会）は、平成 29 年 10 月 11 日（水）～12 日（木）に国立オリンピック記念青少年総合センターに於いて、東京都の後援で「多面的機能支払交付金事例研究会」を開催しました。

この事例研究会は、全国の先進的な活動事例の情報を共有し、活動組織間等のネットワークを形成することにより、農業・農村の多面的機能を発揮させることを目的に平成 27 年度から始まりました。

27～28 年度は東京大学弥生講堂一条ホールで、午後から半日「事例発表」のみの開催でしたが、今年度は、一日目（11 日午後）が「事例発表」、二日目（12 日）の午前に「テーマ別意見交換会」、午後は東京都府中市の「Team 雑田堀」が活動する地域の「現地視察」が実施されるなど、研究会の充実が図られました。

全国の活動組織や自治体の担当者などが行った「事例発表」に 444 名、「テーマ別意見交換会」に 338 名、「現地視察」には 40 名の方々が参加されました。

「現地視察」の府中市には、国立オリンピック記念青少年総合センターからバスで移動し、府中市郷土の森観光物産館前で「Team 雑田堀」の高野会長以下、活動組織の皆さんの歓迎を受けました。

観光物産館から活動地域である府中用水の支流「雑多堀用水」へ徒歩で移動し、活動内容、女性等の多様な人材の活動への参画、周辺住民の関心や反響等について詳細な説明を受けました。

「Team 雑田堀」の交付金の対象となる農用地面積は、他県と比較にならないほど小さいものですが、近隣の非農家から多様な人材の参画や地元企業の協力等、都市部ならではのメリットを活かした活動に関心が集まり、参加者にとっては非常に有意義な視察だったと思います。

なお、事例研究会の内容や資料等については、農林水産省のホームページをご参照ください。

【平成 29 年度 多面的機能支払交付金事例研究会 開催報告】

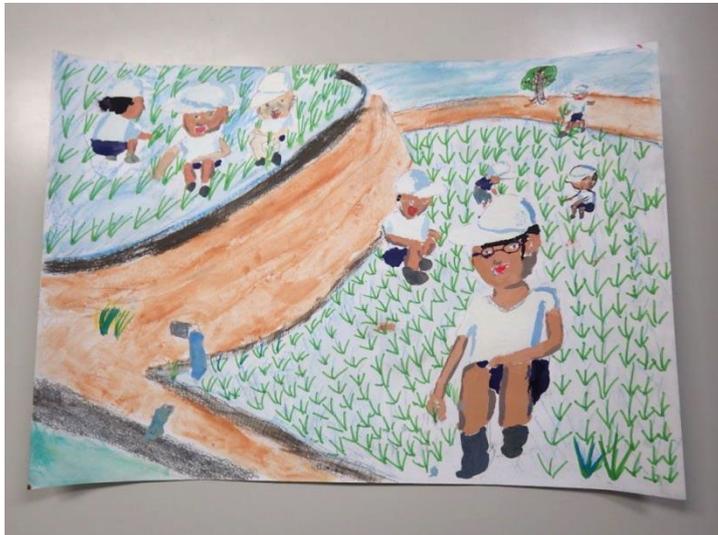
http://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/tamen_siharai/jirei_kenkyu_kai/H29.html

（投稿者：東京都産業労働局農林水産部農業振興課 太田総括課長代理）



「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展 2017

平成 29 年 10 月に全国からの応募作品の審査が行われ、東京都からは残念ながら全国表彰となる入賞・入選作品はありませんでした。地域団体賞として水土里ネット東京 会長賞に小平市立小平第六小学校 5 年生 西村信一郎君の作品が選ばれました。



<展 示>

期間：平成 29 年 12 月 5 日～

平成 29 年 12 月 11 日

場所：東京都美術館 1 階第二公募展示室

主な予定（平成 30 年 1 月～ 3 月）

1 月	関東一都九県土地改良事業団体連合会 第 2 回事務局長会議 都道府県水土里ネット会長等会議
2 月	東京都土地改良事業団体連合会 第 2 回理事会 東京都土地改良事業団体連合会 第 61 回通常総会 都道府県水土里ネット表彰審議会 都道府県水土里ネット事務責任者会議
3 月	全国土地改良事業団体連合会 理事会 全国土地改良事業団体連合会 通常総会





みどり
水土里ネット

地域で守ろう豊かな自然

<http://www.midorinet-tokyo.or.jp>

発行元

東京都土地改良事業団体連合会
東京都立川市錦町3丁目12番地11号

TEL : 042-548-0371 FAX : 042-548-0375
URL : <http://www.midorinet-tokyo.or.jp>